

「これからの学校教育」

校長 斎藤 滋

今年に入ってから切り抜いた新聞記事(仕事に関わる内容)を改めて見てみると、「原発避難生徒いじめ」「いじめによる児童生徒の自殺」年間30日以上欠席が小学校で27581人・中学校で98428人(2015年度)、「児童虐待」のような問題が相変わらず多く報道されています。また、2020年度(平成32年度)から導入される次期学習指導要領については、「英語教育」「道徳の教科化」「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニングを言い換えたもの)」「プログラミング」などが大きく取り上げられていることから皆さんも関心を持っていらっしゃると思います。また、大学入試改革も今後中高での教育活動の在り方に大きな影響を与えることとなるでしょう。学習指導要領の改訂は10年に一度のペースでこれまでも行われてきていますが、今回の改訂の内容についても賛否様々な意見があります。

さて、桐光学園小学校ではこの新しい教育の流れを受け止めつつ、より桐光学園小学校らしい教育活動は何かを追求していきます。一つ確かなことは、現在の桐光学園小学校の教育課程やカリキュラムを大きく変更する必要はないということです。ただし、道徳の授業時間、さらには英語を高学年で週2時間とする場合の授業時間の調整・工夫は学習内容の検討とともに行わなければなりません。今年度から1年生と6年生の英語の授業にネイティブの先生を配置したのもこれからの英語教育の発展の一步と考えてのことです。プログラミングについては、現在行っている総合の授業の2つの柱である農園活動とコンピュータ学習の中で対応できるものと考えています。情報通信技術教育(ICT)においては、現在の取り組み以上の内容が求め

られることになることもあり、学校での学習として適切なものであると判断されるときに新たな展開ができるように小中高の連携のもとに検討の場を立ち上げています。

子どもたちに求められる力が様々な場で議論され、それらがまとめられ国の指針として私たちに示されます。そこには、教育の専門家だけでなく、政治、経済に関わる人たちの考えも入っていることでしょう。子どもたちの今、そして未来に向かって確かな力を身に付けることができるように、私たちは子どもたちが楽しく、主体的な学びができる環境作りをしていきます。学びの環境は、学校、家庭、そして主役の子どもたちみんなで作っていくものです。

「成長の機会」

教頭 馬場 淳

皆さんは、お子さんを公園へ連れて行ったとき、一緒に遊ぶでしょうか。お子さんの年齢によって、その答えは大きく変わるかもしれません。

先月のゴールデンウィークに、私は長野県に旅行に行きました。そこで訪れた地域の公園では、多くのお父さんが子どもと一緒に遊具で遊んでいました。すると、それを見ていた四・五人のお母さんたちが、次のような会話をしているのを耳にしました。

「あのお父さんたちは、どうして子どもだけで遊ばせないのかしら。」

「公園に連れてくれば、子どもは自分たちで勝手に遊ぶものでしょう。不思議ね。」

それを聞いたもう一人のお母さんが、
「東京では、お父さんと子どもは一緒に遊ぶものなのよ。」

その話を聞いて、父親と子どもの接し方は、地域によってそんなに大きく違うものだろうか、と、正直少し驚きました。

親が子どもと過ごす時間を大切にすることは、子どもの情緒を安定させ、心を育てることにつながります。一緒に過ごした思い出は、きっとその家族にとつて、かけがえのないものになるはずですよ。休日、公園で子どもと一緒に遊ぶお父さんを見れば、ほほえましく思う人はたくさんいるのではないのでしょうか。私もその一人です。

しかし、このお母さんたちの会話を聞いたとき、「もしかしたら、親が子どもと一緒に遊ぶこともあるかもしれない。」と思いました。子どもと一緒に遊んでいると、私たちは必ず「子どもの安全を守りたい。」「人に迷惑をかけさせない。」という気持ちを抱きます。それは決して間違っているとは思いませんが、場面によっては小さな危険でも先回りして回避させてしまうなど、過保護になっていることがあるかもしれません。

また、公園では知り合いではなかった子ども同士が友だちになり、一緒に遊ぶこともありませう。親がいつも一緒に遊んでいたら、そういうコミュニケーション力が育つチャンスを生かしてしまっているかもしれません。

どちらが正しいとか、常にこうあるべきだという話ではないと思いますが、様々な見方、考え方を知っておくことは大切です。親と一緒に遊ぶことによつて、子どもは親を通して、周りの友だちとの接し方を学ぶこともあるでしょう。学校でも子どもたちと一緒に過ごす時間を大事にしながら、改めて学校生活の場において成長の機会を多くの場面で設けていきたいと思いました。

平成二十九年年度 各学級 一年間の目標

新しい年度が始まつて二ヶ月ほどが経ちました。
今年度、各学級で大切にしたいことをご紹介いたします。

★一年一組★

子どもたち一人ひとりが安心して過ごすことができる学級を目指しています。子どもたちが自分らしさを表現することができ、お互いに認め合える環境を築いていきたいです。子どもたちと一緒に考えた学級目標は、「さいごまであきらめない」「ルールやきまりをまもれる」「たすけあうことができる」です。まだ出会つて間もない子どもたちですが、友だちのよさや成長に気が付き、優しい声をかけ合う姿も見られます。様々な子どもたちが一緒に学ぶ学校で、優しさや思いやりを大切にしながら生活することができるよう、声をかけていきたいと思ひます。また、やるべきことにもきちんと取り組む姿勢を育てることで、小学校生活六年間の取り組みに対する土台作りを大切にしていきます。
(石井香菜子)

★一年二組★

集団生活で大切にしていてほしいことの一つに「人との関わり」があります。1年二組は、人との関わりを大切にできる子に育つてほしいと願ひを込め、学級目標を立てました。「約束や決まりを守る子」「誰に対しても気持ちのよい挨拶、丁寧な言葉遣いができる子」「周りの友だちや生き物を大切にできる子」「ありがとう・ごめんなさいが言える子」です。どの目標も、人との関わりを大切にしていくなで、必要なことだと思ひます。多くの人が集い、学び合うことのでき

る学校で、いろいろな人と関わり合いながら思いやりの心を学んでいってほしいと思ひます。
(尾崎成美)

★二年一組★

昨年度同様、子どもたちに「考えて行動すること」と「失敗を次に生かすこと」と、そして「思いやりある行動」の三つを大事にしてほしいと伝えています。これらのことは大分浸透しており、失敗を恐れずに自分を表現できる子が多くなつてきました。今年度は、低学年の集大成として、安心して自分を表現すること、友だちのよさを感じたり高め合つたりしながら、共に成長していける学級にしていきたいです。また、子どもたちは、「努力」「勇氣」「思いやり」の三つを目標に掲げました。これらの目標の達成も目指し、「二年一組でよかつたね」と笑顔で三月を迎えられるように、子どもたちと気持ちを共有しながら歩んでいきたいです。
(蒲谷誠一)

★二年二組★

昨年度に学んだことを踏まえて、「自ら考えて行動する」「友だちのよいところを見つけて自分に活かす」「ありがとう」や「ごめんなさい」を自分から言う」という三つを意識して生活してほしいと考えています。二年生になり、子どもたちは、何をやるべきかを自分なりに考えることが増えてきました。今後はさらに周りへの意識を高めて、「ありがとう」という感謝の気持ちを忘れずに伝えられるようにしていきたいです。また、子どもたちは、学級の目標を「やる気」「たすけあい」「思いやり」という言葉にまとめました。行事や授業、休み時間などさまざまな場面でこの目標が達成されるように、子どもたちを支援していきたいです。
(大木菜々絵)

★二年一組★

○友だちの名前を大切にしよう
「ビューティフルネーム」の歌詞のように、友だちの名前を呼んでほしいです。
○友だちの心を大切にしよう
相手に自分の思いを伝える方法を、試行錯誤しながら学んでいきます。
○友だちの体を大切にしよう。
教室や廊下での落ち着いた過ごし方が、安心して生活できる毎日を作ります。
○友だちの持ち物を大切にしよう。
友だちを大切に思う心が、その人の持ち物を大事にする心にもつながります。

行動範囲の広がりとともに自己表現が強くなる三年生の子どもたち。その一方で、自分の言動や相手への接し方を客観的に振り返る力は成長途上です。温かく公平な目で他者を見る心、適切な表現方法を身につけさせていきたいと思ひます。
(猪狩裕亮)

★二年二組★

まずは、授業・遊び・公共の場、それぞれのルールを守つて生活することが目標です。ルールを知つてはいても、まだまだ意義を理解していなかったり、意識できていなかったりします。ルールを守つてこそ集団生活は楽しく充実したものになります。良いことは進んで行い、失敗した時には反省し次に生かせる三年生であつてほしいと願ひます。そして、初めてのクラス替えで新しい友だちと知り合う一年間。挨拶・返事・言葉遣いという基本的なマナーに立ち返り、穏やかな表現でお互いに接することを心がけたいです。同じクラスになつたのも大切な縁。この一年間、一つでも多くお互いの良さを見つけ合い、違ふところも理解し合い、同じ教室の仲間となつていってほしいです。
(田端史子)

★四年一組★

新年度、「やるべきことを、責任をもってやり遂げること」、「高学年としての自覚をもって行動すること」を意識して生活をしていこうと子どもたちに話しました。その話をもとに、学級目標を決める話し合いを行い、「優しさ」、「信頼」、「協力」、「笑顔」という言葉が挙げられました。その中でも、子どもたちはクラスを「笑顔」を大切にしたい、という強い思いがあつたようです。自分たちで立てた目標を一人ひとりが大切に、一年を振り返ったときに、個人としての成長や、クラスとしての成長が感じられる一年間にしていきたいです。
(馬渡絢子)

★四年二組★

今年度の学級目標も「話をきちんと聞くクラス」、「切りかえをすばやくしつかりできるクラス」、そして「誰に対しても、思いやりの気持ちと敬意を持つクラス」の三つで、校訓を反映させた「約束を守る努力をし、責任を果たすクラス」と「誰かのために進んで行動できるクラス」の二つを、先の三つに準ずる目標としています。もちろん、学年が上がつたわけですから、それぞれの目標を昨年度より少しずつ質の高いものとして子どもたちが体現できるようにしなければいけません。子どもたちは、進級を機に「下級生の手本になりたい」、「勉強をこれまで以上にしっかりとやろう」といった気持ちを持つようになつていきます。まだ、気持ちに行動が伴っていないところもありますが、彼らの可能性を信じて、「こうありたい」、「がんばろう」といった気持ちを後押ししていこうと考えています。
(浅利直樹)

★五年一組★

「互いに認め合うあたたかいクラス」
子どもたちは年齢があがるにつれ、友だち

のいろいろな面が見えてきます。人はそれぞれ好きなことが違つていたり、ちがう考えをもつていたりすることが当たり前です。個人の違いを受け入れながら、友だちのよいところを目を向けたり、友だちの価値観を認めたりしながら、大きな受容力で良好な友だち関係を築いてほしいです。子どもたちが安心して生活できるあたたかい雰囲気のあるクラスにしたいです。
「学校生活の基本は授業」
子どもたちの学校での生活は大半が授業の時間です。安心して学校生活を送る上では、授業中のルールが守られていたり、安心して発言できるといった授業の雰囲気作りが大切です。
(福富直史)

★五年二組★

子どもたちが、友だちと支え合いながら安心して生活できる学級を目指しています。クラスの目標として子どもたちと考えたことは、「明るく素直で元氣よく」「困った人がいたら助け合う」「楽しむときは楽しむ」ためにやる時はまじめに」の三つです。自分らしさをクラスの中で発揮でき、それを友だちが認めるような雰囲気づくりを大切にしていきたいと思ひます。

現在、週に一回、班ごとにクラスレクを企画しています。クラスの団結を高めることはもちろん、たくさんの子にクラスを動かすような経験をしてほしいという願いを込めて行つていきます。高学年の仲間入りをした子どもたちの、学校での活躍の基盤が作れるような一年にしていきたいと思ひます。
(森山沙也加)

★六年一組★

「頼られる人」
クラブや委員会活動、地区別集会では、六年生として中心になつて活動を進めていくことが多くあります。中心といつても、その

活動を仕切る人だけが中心というわけではなく、フオーロしたり、アドバイスをしたりする人たちもその活動の中心となつていっていると思ひます。みんな協力しながら、これらの活動がより良いものにしていけるような子たちになつてもらいたいと思ひます。
「人を大切にできる人」
この一年、今まで以上にクラスメイトとの仲を深め、よい形で卒業できるようにしていきたいと思ひます。時には喧嘩や意思の疎通がうまくいかずにすれ違いが起るかもしれないかもしれません。それら一つ一つを糧にしながらも、周りにみんながいてくれてよかつたと思ひえるようにしていきたいです。
(新井航)

★六年二組★

学級・学年・学校といつた各集団の中で、六年生として自分にできることを考え、その役割を果たすために努力できる人になつてほしいと思ひます。ここでいう役割とは、みんなの前に立つて引張つていく存在のみを指しているわけではありません。中心となつて活動する友だちをサポートする子、必要なことに気づいてできることを進めていく子など、役割にも様々なものがあります。みんなが自分の役割を果たす中で、一人ひとりにできることがあり、それが違うからこそよいということも感じられるようにしたいです。小学校生活最後の一年間、授業や行事などを通して、個々の成長がクラスの成長につながつていく一年になるよう、支えていきたいと思ひます。
(佐藤浩太郎)

活動◇紹介

日頃の様々な活動において、実際の実践を厳選し、そこでの様子や指導のねらいなどをご紹介します。

英語教育

今年度は英語の授業の一層の充実をはかるためネイティブ講師の佐伯ローズマリー先生をお迎えしました。1年生と6年生の授業に入っています。1年生は英語を聞いたときに日本語に訳さないで受け止めることのできる時期です。歌ったり、身体を動かしたりしながら英語に親しんでいます。また、6年生は5年間英語を学習してきましたが、実際に使う機会がありませんでした。

英語を知っていることと実際に使うとは大きな違いがあります。簡単な一言であっても瞬時に発することのできる瞬発力が必要です。これは実際に自ら冷や汗をかきながら体験していくことで身についていくのではないかと私自身の体験から感じています。ぜひこの機会に子どもたちに「英語が通じた！」という体験をしてほしいです。

(麻生靖代)



農園活動

本校では、四季の自然の移り変わりを体いっばいに感じ取ることのできる農園を舞台に、様々な動植物と接し、農作物の栽培体験を行いながら、多くのことを学びます。その一つとして、現在、6年生は収穫祭に向けた作物の栽培活動に挑戦しています。今年度は、例年育てているジャガイモの他にもニンジン・タマネギを加え、全校児童が楽しみにしている収穫祭をより盛り上げていこうと、これまで以上に張り切って取り組む様子が見られています。農園活動は、様々な命と真剣に向き合い、自然の厳しさや恩恵を肌で学ぶことのできる素晴らしい機会が数多くあり、そして物事に対する責任感や生き物への愛情などについて学ぶことのできる貴重な体験ができるのも魅力の一つです。これからも、6年間を見通した活動の中で、作物を育てる苦労や収穫の喜びを味わいながら、子どもたち一人ひとりの人格形成に大きく関わる豊かな心を大切に育んでいきたいです。

(鈴木健太郎)

